

大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局
 大阪市中央区道修町3-3-10
 大阪屋道修町ビル3F
 06-6232-1095

激突の情勢 政治を変える新しい共同を 革新懇全国交流会 I N大阪

11月16日～17日、「激突の情勢 政治を変える新しい共同を」をスローガンに、全国革新懇「地域・職場・青年革新懇全国交流会」が大阪で開催され、大阪損保革新懇から46名が参加しました。

堺市民会館での全体会議には、全国から過去最高の1700人が参加、会場一杯の意気高い集会となりました。首都圏反原発連合のミサオ・レッドウルフさんが連帯の挨拶を行い、竹山修身・堺市長のメッセージが紹介された後、代表世話人の志位和夫・日本共産党委員長が「現在の情勢と革新懇運動」について特別発言。憲法や原発ゼロ、TPP反対などの「1点共闘」が各地で広がり、革新懇がその要の役割を果たしていると報告しました。

職場革新懇シンポジウム

17日の職場革新懇交流会はシンポジウム形式で行われ、全国の職場革新懇から161名が参加しました。5人のパネリスト（大阪国公革新懇、東京・西武革新懇、山梨教育職場革新懇、大阪損保革新懇、東京・全日空革新懇）が報告を行った後、参加者からのフロア発言がありました。

パネリストの一人、大阪損保革新懇・松浦章世話人は「今日の雇用問題と職場革新懇の役割」について報告。希望退職の名の下に「退職強要」が繰り返される損保の職場で、「今こそ革新懇の旗を高く掲げる必要がある。労働組合の違いを超えてすべての労働者に働きかけ、仲間に信頼される組織に成長したい」と決意を述べました。

発言要旨

松浦 章さん（大阪損保革新懇・世話人）

私の問題意識は、規制緩和の流れの中で、雇用が劣化し、それが企業・産業の劣化に、ひいては社会の劣化につながっているのではないかとことです。

その中で今、職場革新懇の役割が問われています。

大阪損保革新懇とは

大阪損保革新懇は1998年に結成し、先月15周年を迎えたところです。革新3目標に加えて、損保産業の民主化を求める三つの座標軸を、活動の原点においています。第一に損保は「平和産業」であること。第二に損保は「国民生活に密着したセーフティネット産業」であること。第三に損保は「生きがい・働きがい産業」であること、です。

現在、8つの会社の300名以上の仲間が会員です。現役の会員は管理職から新人社員まで、10年、多様な経験者を擁しています。



シンポジウムで報告する松浦章さん

損保で相次ぐ「退職強要」

損保ジャパンと日本興亜損保が、今年度も、12月に200名の希望退職を実施します。応募条件は40～59歳の総合職で、すでに全員面談が始まっています。「やめなさい」とは決していません。ただ、「この会社であなたにやってもらう仕事はありません」というわけです。

革新懇会員に相談のメールが入っています。

「送っていただいた資料は大変参考になりました。おかげで強気に対応できました。しかし、『やめません』と何度いっても、『どうしてだ、仕事がないんだぞ』とあなたは新会社にはふさわしくないといわんばかりです」

まさに「人格権」侵害です。企業のブラック化を許すわけにはいきません。両会社は、3年間で4800人の人員削減といえます。

「企業の社会的責任」を問う

「企業の社会的責任」と労働との関係を考えるには、2つの視点が必要です。

第一に、企業が人間尊重の精神に反する行為を行っていないかという視点。第二に、「根源的な企業の社会的責任」すなわち、それぞれの企業・産業が固有にもっている社会的役割を挙げているかという視点です。（P2へつづく）

(P1よりのつづき)

第一の視点ですが、水面下での「退職強要」や「追い出し部屋」など、非常に巧妙なやり方が、いまマニュアル化され広がっています。今の経営者には、労働者の人格や、その家族の生活などに思いをはせる「想像力」がまったく欠如しているといわざるをえません。

次に第二の視点です。最近ではJR北海道の相次ぐ不祥事があります。民営化の際、熟練の人材が数多く追放されました。

運輸サービス産業における「雇用の劣化」の問題は、生命にかかわるだけに非常にわかりやすい。しかしひるがえって考えれば、「雇用の劣化」による社会的責任の欠如はすべての企業・産業に共通していえることです。むろん損保も同じです。

革新懇の旗を高く掲げる

損保ジャパンで60歳の再雇用を拒否された小畑裕久君のたたかいがあります。彼は仕事もでき職場の後輩や代理店からも高い信頼をえていましたが、恣意的な低い評価によって再雇用を拒否されました。今、大阪地裁でたたかっています。

損保ジャパンでの、この3年間の「希望退職」では、彼は、労働組合の違いを超えて、退職強要を受けた仲間の相談に乗り、励まして撤回させてきました。その結果の再雇用拒否です。

泣く泣くやめていく仲間をこれ以上つくらない。そのために全力を挙げたいと思います。革新懇の役割がここにあります。

現場では、労働者はみんないい仕事がしたいと思っています。

東日本大震災で、地震保険の調査・支払いにあたった若手社員は、最初、一面がれきのあまりの惨状に声もなかった。しかしやがて、ご家族が亡くなられて、全損になった建物の写真を撮影するときには、合掌と黙とうをしてから撮影を始めるようになったといえます。

この仕事に誇りや将来性を感じた若い仲間が、本当に未来に希望をもてる、そんな企業・産業にすることが今こそ必要です。

損保交流集会

16日(土)夕方からアイクルの部屋で「損保交流集会」を開催しました。東京・あいおい損保革新懇から2名、石川損保革新懇から2名、香川損保革新懇から5名、名古屋損保9条の会と岐阜から各1名と、大阪以外から11名が参加。大阪損保革新懇の34名を合わせ45名での交流会となりました。

野村英隆代表世話人の歓迎挨拶のあと、各地からの参加者を一人ずつ紹介、各々取り組みの現状が報告されました。その後、損保ジャパン社を相手どって職場復帰の実現めざしてたたかっている



小畑裕久さんが決意表明。「尼崎クボタアスベスト裁判」原告の妹である前多康代さん(損保ジャパン革新懇)が、来年3月6日大阪高裁での判決を前にしての署名を訴えました。

大阪からは各職場代表が経営の動き、職場の現状について報告。料理に舌つづみをうちながら楽しく交流し、共に各地で奮闘することを確認しました。

(感想)

職場シンポジウムでの大阪からの発言は大変良かったですね。損保交流会もいろいろなことを聞いて良かったし、お世話された方々本当にありがとう。石川損保革新懇も結成15年を12月に迎えます。会場発言で銀行革新懇の「楽しくなければ広がらない」「真面目でなければ続かない」の発言に大いに励まされ、これからも頑張っていきます。
石川損保革新懇 中杉治雄さん

戦争への道を通るとともに、原発の犠牲を顧みない安倍政権は「国民の生活」や「命の尊さ」さえ眼中にない極右の本性を丸出ししています。経済団体首脳、大企業・ブラック企業の経営者は品格を投げ捨て「守銭奴」に墮落しています。「国民の命と生活」を大切にす社会、「若者が夢と希望」がもてる社会実現のために頑張る決意を固めた意義ある集会でした。
(フロア発言を行った)日新革新懇 中川昇さん

全国革新懇・全国交流会に初めて参加しました。転勤し、地方での活動の困難さに負けて停滞していましたが、改めて革新懇運動の重要性に気付くことができました。損保交流会では、現役、OBのみなさんからの近況報告を聞き、自分が何をすべきか、職場で何ができるか、見えてきました。この輪を大切に、代理店のみなさんを含めた大きな運動に広げていくことが、損保産業の健全性を維持する道と確信し頑張っていきたいと思います。
香川損保革新懇 Kさん